

+幸せを探すあなたへ

あっ、私はこれを知らなかったのだな！ 曾祖父の時から外国宣教師を通してイエス様を信じるようになった4代目キリスト教の家系なのに、20年余りの間、彼が未信者のように暮らしていた過ぎた歳月を思い出したくなかった。奥

うわべの幸せ？ 根源的な幸せ！

さんにも秘密にした過ぎた日の事...。30年間、教鞭を取っていた父の糖尿病による死と、いんちき牧師に会って不健全神秘主義に陥った母の盲信、その盲信により病院に一度も行くことができず、肺結核にかかって死んだ妹、また、みじめに命を終えなければならなかった母の姿。こういうひどいことを体験しながら、彼は正常にネクタイを締めてエリート待遇を受けながら、職場に通うことに懐疑を感じて人生自体をあきらめた。その後、糖尿病によって、片方の足を切断しなければならなかった時は、それこそあらゆることが終わったと思った。しかし、彼に伝えられた福音の手紙の一枚、それを読んでみた彼の唇から「私の人生がここにありますね」という告白が流れ出した。その後続いた出会いを通して、彼はこのように告白した。「私は20年間、神様を離れたと思っていたが、神様が私を待っておられましたね。やっと人生の理由と方向が見えます」福音の手紙十回目の出会いを終えて立ち上がる日、私の耳に聞こえてきた彼の独白が、心に刻まれた。「あっ、私は...キリストを知らなかったのだ...」

根源的な幸せの開始 なぜ人間は問題と苦しみが出てきたら、落胆し、挫折の中でさまようようになるのでしょうか。死の問題の前で、それほど恐れる理由は何でしょうか。それは、希望がないためです。希望がない人生は、満足がありません。その人には人生とは、ただ退屈で冷酷で苦しい生存に過ぎません。しばらくある幸せも、すぐに通り過ぎる夕立ちのようにしばらくの慰めを与えるだけです。人間に根源的な幸せをもたらす真の希望、それは何でしょうか。聖書は「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ」(イザヤ 40:8)と語っています。クリスチャンの希望は、永遠に成就する神様の約束を信じるところにあります。根源的な幸せのための神様の最高の約束が、まさに福音です。

人間はなぜイエスを信じなければならないのでしょうか。人間にはたましいがあります。そのたましいが救われなければならないからです(1ペテロ 1:9)。イエスを信じる人は、たましいが救われて神様の子どもになります。死は単に天国へ入っていく関門であり、この世での人生は、天国の民として根源的な幸せを味わいながら、その福音の祝福をあかしすることです。イファ女子大学の総長をしたキム・ファルラン博士は、生涯、福音を伝えることに努めて、臨終前に後輩と弟子に向かってこういう遺言を残しました。「葬式のかわりに、さらに豊かないのちの道へ喜んで送る歓送礼拝をすることを望む。そして、勝利にふさわしい勇壮さと、すばらしい音楽会になることを望む」有名な英国のチャーチル首相が遺言で「ラッパを2度吹いてくれ。最初は就寝ラッパ、二番目は起床ラッパを吹いてくれ」と遺言しました。真の希望を持った者は、生きることも死ぬことも、根源的な幸せを味わうようになります。これがイエスを信じて救われなければならない理由です。

救いとは何ですか 救いは、人間が自ら解決できない根本的な問題から解放されることで、過去のすべての罪と過ち、生年月日による運命、さだめから解放されることです。また、現在のすべての問題が解決されることで、神様の子どもになって、この世を離れる日、永遠な天国へ行く来世問題が解決されるのです。その道がまさにイエス・キリストです。イエス・キリストの十字架の死と復活は、まさに人間のすべての問題を解決したことを確証する地上最大の事件です。このイエス様を私の救い主として信じて受け入れる時、誰でも根源的な幸せを味わう神様の子どもになるのです。この救いの祝福は、永遠な幸せの実を結ばせます。

「愛の神様、私は罪人です。イエス様が私のすべての罪を十字架で解決して復活されたキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いてイエス様を私の救い主として、私の人生の主人として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になってくださり、私を導いてください。これから神様の子どもになった祝福を味わって生きるようにさせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

神様は経済の門を だれに開かれるのでしょうか

最後まで食い下がれば良いです。「アイデアを泉がわくようにする 10の方法」という文章を見るようになったのですが、そのうちで心に残った内容があります。「最後まで食い下がってください。世の中のどんなものも、執拗さに対抗できるものではありません。才能も対抗できません。才能があるのに成功できない人ほど、まぬけな人はいません。財産も対抗できません。生まれた時から裕福な人の中で、貧しく死んだ人が多いです。天才的な才能も対抗できません。教育も対抗できません。世の中は教育を受けた、なまけ者でぎっしり埋まっています。幸運も対抗できません…」

神様は経済をだれにくださるのでしょうか。普遍的に見れば、三つの部類があります。信徒も未信者も関係なく、世の中を維持できる人に経済をくださいます。そして、専門化になっている人、世界化(Global)になっている人にくださいます。

そのために、重職者が緊急にすることがあります。重職者一人一人が福音化されなければなりません。一歩進んで、教会の主役になって、世界化の目を開いて、広く、遠くを見なければなりません。そして、五つのことを体験しなければなりません。最初に、牧師と真の伝道弟子と真の宣教師と祈りが通じる祝福をのがしてはいけません。二つ目、必ず重職者は牧師と現場弟子と一緒に、昨日の伝道、今日の伝道、明日の伝道が通じなければなりません。パウロは、使徒の働き 19章 21節で「ローマも見なければならぬ」、23章 11節で「ローマでもあかししなければなりません」、27章 24節に「カイザルの前に立たなければなりません」と話しました。それなので、神様が経済をくださらないはずがありません。三つ目、奥義が通じなければなりません。重職者は、世界福音化という一つの方向をにおいて、牧師と伝道者を助ける人、同労者、家主になるという奥義の契約がなければなりません。四つ目、与えられたみことばが実際に生活の現場で成就することが確認できて、体験できなければなりません。五つ目、すべての栄光を人でなく、神様に帰す中心が通じなければなりません。このとき、神様は経済の祝福をくださるのですが、他の人が全く奪っていくこともできなくて、分けることもできない唯一性の答えで来るようになります。この答えが来るようになれば、少なくとも 10倍以上の影響力ができます。イエス様は、マルコの福音書 10章 29~30節のみことばを通して 100倍の祝福を約束されて、イサクは契約を握って一年農作業をしたのですが、想像もできない 100年の答えを体験しました。このようになれば、絶対に揺れない成熟した弟子として立てられるようになります。お金を与えても大丈夫な弟子、試みがきても勝てる弟子として立てられれば、神様は隠れた経済の祝福を注ぎ込んでくださるのです。

重職者の四つの経済 重職者は四つのことを家訓として祈らなければなりません。最初、私が暮らしている地域の文化は、私が責任を負うと考えて、地域の暗やみ文化を変える教会建築を家訓としなければなりません。二つ目、主のしもべを考えながら十分の一を通して教会が堅く立って、主のしもべが思いきり伝道、宣教することができるように助けるべきです。三つ目、この時代と世界をどのように生かすのかをいつも考えながら、世界宣教のために用いられる家庭と家系の祝福を味わうように祈らなければなりません。四つ目、未来と次世代を生かして、どのように彼らの土台になるのかを考えなければなりません。全世界の現場に次世代のための共同体訓練場が立てられるように胸に抱いて祈らなければなりません。これが初代教会の伝道運動で、皆さんが味わう答えです。

18日(月)

個人の信仰生活に成功する次世代(使徒1:1-8)
イエスがキリストという契約を握って歩みごとに神の国、聖霊の満たしの働きを体験すれば私の生涯に神様のビジョンが発見できて、礼拝と訓練を通して使徒の働き 2章の答えと力を受けるようになります。

19日(火)

経済の祝福を味わう次世代(使徒 11:28~30)
神様は、福音化、専門化、世界化された人に経済の祝福をくださいます。地域の文化を変える教会建築、教会経済が生き返る十分の一、世界を生かす世界宣教、全世界の未来と次世代を生かすレムナント共同体を家訓と神様との裏面契約としなければなりません。

20日(水)

伝道の祝福を味わう次世代(マタイ 24:14)
神様の願いは私の生活と中心に完全福音、完全祈り、完全伝道が込められることです。そのとき、王、祭司、預言者の祝福を味わうようになって、みことばと祈りと伝道の道しるべの中で神様の視線が留まる伝道者の祝福を味わうようになります。

21日(木)

神様のかくされた福音と奥義が通じる者(ローマ 16:25~27)

神様のかくされた福音と奥義が通じる数多くの次世代と重職者、産業人をすべての現場に立てるのが神様が希望されることで、時代を生かす道です。こういふ出会いと契約を置いて祈るとき、使徒の働きに起きた聖霊の働きを味わうようになります。

22日(金)

地教会運動をする者の祝福(使徒 10:1~8)

初代教会の弟子は、イエスがキリストという事実と神の国、聖霊の満たしの契約を握って、地域を生かしました。この時代に私たちにくださった祝福が福音を回復して、地域を生かす地教会運動です。

23日(土)

みことばと学業と機能をどのように一つにできるのでしょうか(詩 119:10~11)

神様のなかで、イエス・キリストのなかで、神様の大きい働きの前で、私を発見すれば、成功するようになります。キリストを通して暗い時代を生かすことに、このことを果たせる真の教会の中で、死んでいく現場を生かすために私を呼ばれました。

週間メッセージ

産業宣教 根本を見た人々の働き
(使徒 1:1, 3, 8, 11)

伝道学 | 福音が荷物になる時(マタイ 24:14)

核心訓練 | 弟子の目(マタイ 4:19~21)

聖日 1部 あなたがたは世に属する者ではありません(ヨハネ 15:18~27)

聖日 2部 カインとアベル(創世記 4:1~20)

天の民の奥義

「午後三時の祈りの時間に・・・」

本質を知っている人たち どんな場合もうわべによって、世の中を変えることはできません。内容ある内面、本質を見るようになる時、変化の働きは始まります。私がだれなのか、私の内面を知って、世の中の支配者サタンに捕われている世の中の内面を見ながら、霊的問題で災いに陥った人の内面を見たら、世の中を変えられます。かつてユダヤ人は、組織の本質、未来の根本を悟りました。10代のときの成人式を通して、若者の未来と専門性を準備します。それで、目に見えないように世界を征服するのです。今回も、全世界大学評価でハーバード大学が1位を占めました。この大学の特徴が、入ってきた学生を最後まで責任を負うということです。それだけではありません。アメリカには400個を超える Think Tank があり、ヨーロッパには Round Table、日本の Digital Kids、中国には10代 Think Tank(智库)で各分野440万人の次世代を育てていると言われています。本質を分かれば世の中を変えられます。

初代教会は800年ぶりに福音の本質を回復しました。それで、どんな状況の中でも、イエスがキリストを味わいながら、行く所ごとに神の国が臨んで、聖霊に満たされる働きで時代を変えました。本質を分かったペテロは、死の前でも、法廷でも、福音の唯一性を告白しました。パウロは、この福音の本質を握って弟子を見つけて、会堂に入って次世代にその本質を伝えました。本質を見れば、仕事や人において序論、本論、結論が区分できます。過去、現在、未来も区分できます。この本質を握って働くとき、奴隷、捕虜、属国、災いの現場から人を救い出して、文化を征服して、未来の責任を負うべき次世代の土台を作ることができます。本質を分かる者には、いつも自分が行くべき現場、切実さと弟子の働きに情念が込められるようになります。

神様の願いと天の民 福音は世の中にあるあらゆることの中で最も幸せで平安なことです。なぜなら、悪魔の権威をうち破ったことで、悪魔に制せられた者を解放させてあげて、疲れて重荷を負っている者を休ませながら、偶像とシャーマニズム、占いから

解放させることだからです。神様の願いは、イエス・キリストを通して私たちとともにともにおられることです。神様がともにおられる者を倒すことはできず、奪っていくこともできません。このインマヌエルを味わいながら、他の人にも、この祝福を実際に味わうようにさせてあげるのが、神様の二番目の願いです。そして、道が通じて、目の高さが通じて、神様の方法が通じる弟子を立てて、キリストの光で地域を生かす地教会を立てるのが三番目の願いです。私たちは今、神様が最も必要とされること、次世代が起きて福音を持って全世界に走る、その日の絵を描いていきつつあります。たとえ、世の中で迫害と憎しみと誤解があるとしても、むしろ、その中に神様の重要な計画と祝福があることを発見して、聖霊に満たされる力で、サタンに制せられている者たちを生かす天の民のプライドを持たなければなりません。天の民は、祈る時ごとに御座の祝福が臨んで、天の軍隊が動員される霊的な奥義を味わうようになります。そして、当然、成功の座、征服の座に来ていることを見るようになります。前に見られなかったことを見て、ペテロが味わった「第三時の祈りの時間に...」(使徒 3:1)の祝福を回復する一週間になるようにお祈りします。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

伝道者の祈り

今日もインマヌエルを味わう祈りの祝福の中にあるようにされたことを感謝します。私たちに多くのことが必要ですが、神様がともにおられる証拠を味わうようにさせてください。神様が上から与えてくださる力を得て、行く所ごとに神の国が臨み、隠された多くの弟子が起きる祝福を味わうことを祈ります。今、この時間に聖霊で働いてくださって、私たちの暗い霊を明るくして、霊的な部分が癒されるようにしてください。すべての災いが退くようにして下さって、すべての不信仰が退くようにしてください。今日も、天に属する者のプライドを持って、神様の栄光が現れる最も価値ある生活を送るようにさせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



真夏を送る キリギリスの専門性

十才にもまだならない幼い子どもの目にうつったイソップ童話、その有名な蟻とキリギリスの話の教科書の挿絵は、今日まで目の前にありあ

りと浮かぶほど、すばらしい教育効果があった。

新しい村運動で明け方の鐘が鳴るのに、夏の日のがすがすがしい木陰の下でタンタラと歌っていたキリギリスが、冬を過ごすときは、それこそみじめな人生の敗北者になって、夏中ずっと汗をダラダラ流しながら収穫して、倉庫に積み重ねておいた蟻の金持ちの家の門の前で、もの乞いする身分になりましたと、力を込めて説明された。空のような先生の冷厳で脅迫的だとすら感じた教訓的表情に、むさくるしい服を着て、がたがた震えながら、物乞いのうつわを持って立っていたキリギリスの絵までオーバーラップして、私は、幼い手をぎゅっと握るようしていた。

そのように形成された熱心な体質で、学生の時は、夜に寝ないで勉強して、職場では戦闘的に仕事をしたが、大きく成功したり認められたり、さらに金持ちのようなものになることもできなかった。

二十世紀パロディのキリギリスは、夏の日にルラルラと歌を歌って、幸いにレコード一枚を出したのが大ヒットして、金の座布団に座ったか、あるいは仕事はしてみることもせず、両親が買った二億円の家でゆうゆうと暮らして、蟻が死ぬほど働いて稼いだ千円を貯蓄しているとき、家の価格の暴騰で、三億円儲けるとい話になっているという。

ところで、私はあまりよくない背景と環境の中で、もしかしたら、専門性になったかもしれない絵の勉強がしたかったので、何日かふとんの中で静かに泣いてあきらめてしまったこと以外には、本を読んで勉強することを抜いて、専門性だと出すほどの特別なものもなかったので、キリギリスが私にはそれほど説得力がなかった。単に、人生の序盤を生きて下した結論は、いくらがんばっても、良い運命ならば良いということと、だめな運命ならば絶対にだめだという宿命論のようなものが私の中に人生の座右の銘のように座を占めた。

もちろん、神様という存在もあったが、天主様と呼ばれたその時期の神様は、その時、その小学校の先生の教訓のように冷酷な人生のシナリオを結論で与えただけだった。少しでも憎く思われれば、雷が落ちるように罰を与えて、ちょっとかわいく見えるな

ら、祝福をくれる存在だと思っていたその天主様によって、私の人生自体は、もう一つの緊張であったし、戦争だから、その方の気に入ってみようと成人君子でもなろうとするように、私自身を固く締めつけながら生きていたのだ。

そのような私の人生にうれしい知らせが「福音」という名で来てくれた。

はるか遠い空にいらっしゃった「神様」が私の人生のたったひとりの救い主として、私の主人として、私の心の中に来られ、私の運命のストーリーを完全に変えられた、ただ1人の「神様」になってくださった。その時から、私は蟻のように熱心に生きなければならぬという強迫観念から抜け出した。

キリギリスのように怠けることもなくて、ある日、人気を得たり、多量のお金になったりする専門性がないと、それ以上、胸を打つこともなかった。環境が何かのせいにするどころか、難しい背景がどれくらい大きい祝福の土台なのか、むしろ感激するようになった。福音と伝道の現場の中で、だれの話も私の話として受け入れる深い洞察力が、それから始まったためだ。

霊的な目を開いて見ると、福音の中にすべての祝福が隠されていた。神様の秘密であるキリストの中には、知恵と知識のすべての宝が隠されていると話した使徒パウロの告白が、本当に実感できる。

とても暑いこの夏の日、すがすがしいエアコンの風を楽しみながら歌っていたキリギリスのように、神様が私にくださった身分と権威・創造主をお父さんとして置く、そのものすごく大きな背景を味わっている。

そうするうちに専門性もできた!霊的な事実を知ることができなくて成功して崩れるこの時代の知識人たちに、イエス様の弟子ルカのように、福音の手紙を書くべきだという考えが出て来たのだ。

私は今、ひと勝負で大ヒットしそうな良い感じで、たましいから沸き出る歌を歌っている。熱心体質で汗を流す蟻があざ笑っても大丈夫だ。私は、21世紀、余裕をもって歌うキリギリスになったから。随筆家_イエスサラン教会牧師夫人キム・ユスン

* 相談したい方はこちらまで連絡してください